

月刊

# 地域保健

12  
2007



JURI  
2007 DECEMBER

●特集

セーフティ  
プロモーション、  
動き出す

● FACE 2007

佐伯和子さん

北海道大学医学部保健学教授

# 佐伯和子さん

北海道大学医学部保健学科教授



広い視野を持ち、

保健師活動を戦略的に伝えてほしい。

急務となっている保健師の人材育成。「市町村保健活動の再構築に関する検討会」「指導者育成プログラムに関する検討会」などで、新任保健師の教育目標や管理者に求められる能力についてまとめていた。北海道大学教授の佐伯和子さんにお話を伺いました。

## 対人支援が 保健師の基本

——先生は新任保健師の教育目標について報告をまとめられています。その前提となる、保健師として一番大切な部分は何であるとお考えですか？

**佐伯** 私は保健師活動の基本は「対人支援」にあると思います。一人ひとりの生活をしっかりと見据えたうえで、健康に関する援助をどれだけできるかということです。データをただの数字と

して見るのではなく、そこから個人の顔が見えてくるのが看護職、保健師です。そうした見方ができるのも、対人支援の経験が土台にあるからです。それがなければ組織や地域に対する支援も上滑りなものになってしまいます。

具体的には、相手の生活環境を理解し、健康状態を医学的、心理学的、社会学的な基盤を持ってアセスメントしたうえで保健指導ができることです。教科書にあるような型どおりの指導をするのではなく、状況に合わせて今は何を言うべきか、あるいは引くべきか、見守るべきかを判断をしながら、相手

が地域で生活できるように支えていくことだと思います。

私が新任のころは対人支援がメインで、地域の人の生活に深く入っていくことができましたが、今の若い人たちには対人支援の経験を十分に積めていないと思います。

——地区担当制から業務担当制に移行してきたことなども大きく影響しているわけですね。

それもあるでしょうけど、若い世代の気質が変わってきたことも大きいです。



さえき・かずこ

1977年法政大学社会学部卒業後、北海道立衛生学院保健婦科卒業。兵庫県、北海道の保健所で保健師として勤務した後、北海道立衛生学院に勤務。その後、琉球大学大学院保健学研究科を修了し、札幌医科大学、金沢大学を経て、2005年より北海道大学にて現職。「希望を持ち続けなければいつか実現する」ことを信じての毎日。

# セーフティプロモーション、動き出す



ヘルスプロモーションに比べ、わが国での浸透度が低かったセーフティプロモーションだが、昨今は関係者の熱心な働きかけにより、急速な展開をみせている。今年9月には、研究者・行政・市民が一堂に会し、「日本セーフティプロモーション学会設立総会」が開かれた。わが国においては、新たな段階に入ったといえる。

単なる安心・安全の呼びかけとは違う、外傷サープライズなどを含む科学的根拠に基づいた取り組みであり、外傷予防・自殺予防・高齢者・子どもの安全対策など、その守備範囲はとても広い。悲惨な事故が連日のように報道される今日ほど、セーフティプロモーションが求められるときははないのではないか。

今月はセーフティプロモーションとは何か、その概説とともに、先進的な取り組みを行う自治体の例を取り上げる。あわせて、「子どもの事故予防」に特化した具体論を掲載する。



## p8 セーフコミュニティ・セーフティプロモーションへのいざない



反町吉秀

青森県上十三保健所所長・日本セーフティプロモーション学会副理事長

p15

## 大分県中津保健所におけるセーフティプロモーションの取り組み



小野重遠

大分県中津保健所所長

p24

## セーフティプロモーションの視点から見た子どもの事故予防



今井博之

吉祥院こども診療所所長・子供の安全ネットワークジャパン幹事

p31

## 横浜市におけるセーフティプロモーションの取り組み



稲坂 恵

横浜市健康福祉局福祉保健課 事故予防推進事業担当

p40

## 組織の枠を超えて取り組んだ亀岡市の安全対策

日本初！セーフコミュニティ認証取得内定

取材・文 編集部

## セーフコミュニティ・ セーフティプロモーション へのいざない

青森県上十三保健所所長  
日本セーフティプロモーション  
学会副理事長  
**反町吉秀**



### セーフコミュニティとは?

セーフコミュニティとは、事故、暴力、自殺の予防に、住民参加を伴う部門横断的協働により取り組む、安全安心のまちづくりです。しかも、それは、科学的根拠に基づく、予防プログラムの作成と評価を行うまちづくりであります。その根本には、1989年にスタッフホルムで開催された第1回世界事故・傷害予防学会で採抲されたスタッフホルムマニフェストにてうたわれた、「すべての人々に安全安心を(Safety for all)」が、あります。

これは、地域保健関係者にじみの深い、ヘルスプロモーションに関するオタワ憲章(86年)における「すべての人々に健康を(Health for all)」と同様、社会経済的格差、思想信条、人種等によらず、すべての人々が生存して

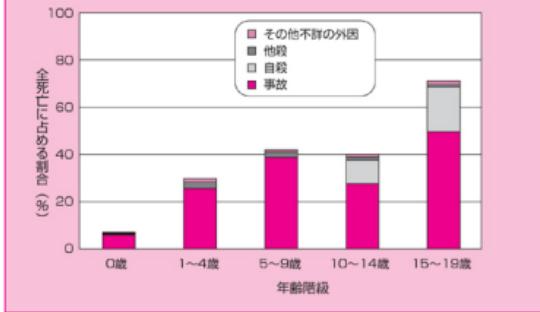
いく上で必要な安全・安心の確保をうたうものです。

### これまでの安全・安心の取り組みとセーフコミュニティはどう違うか?

ところで、全国各地で取り組まれている安全・安心のまちづくりと、セーフコミュニティ活動は、具体的にどう違うのでしょうか? まず、一番目の違いが、従来の安全・安心のまちづくりが、その対象を地域における犯罪や子どもの連れ去りや窃盗等、交通事故などに限定しているのに対し、セーフコミュニティでは、対象があらゆる事故、暴力、自殺・幅広いことです。

安全・安心と一口に言いますが、両者のニュアンスは多少異なります。安全は客観的データで示されるものであるのに対し、安心は、住民の主觀的な思いである、と言えます。図1をご覧ください。図1に基づいて

図1 日本の子ども(男)における傷害死の全死亡に占める割合(1999~2001年)



## 東京近隣、 私たちのメタボな生活

単なる“人集め”から実効性のある指導へ



取材·文=西内謙樹

## さて、富津の特徴とは？

富津は何度も行つたことがある町だった。旅行ガイドブックの記事を書くため、町のあちこちを回つたこともあります。ハテサテ、いったい富津にどんな

から海上の橋をしばらく走ると左手の海で<sup>おき</sup>巻立て漁をしているのが見える。

目的地の富津市役所は、館山道と東京湾との間に位置した。廻りて、此に

山田栄子さん、そして同調課長の  
鈴木良昭さんや、所属の保健師6人の

問題について説明をお願いすると、「平成5—9年度の有所見率の比較」

「診結果有所見率（男女別）」「平成18年度腹回別の有所見率」の資料を出しな

がら（いずれも40～64歳データ）

男性は太っている十有八歳といふことでメタボリック。女性はメタボリックというよりむ HbA1c と LDLコレステ



近すぎてよく分からぬ。頭の中に浮かんだのは東京湾に浮き出た岬や、その先端にある展望台近くの食堂で出されるバカ貝（アオヤギ）料理など海のイメージばかりだつた。

富津へのアプローチは車を利用した。以前なら東京から首都高速道路を千葉方面に走り、浦安、船橋、千葉、木更津と東京湾沿いに時計回りをしながら進むしかなかつた。距離にして100キロメートル弱、高速も途中で途切れるので2時間以上みでおかなければならぬ。それが東京湾アクアラインと鶴山道のおかげで距離は約65キロメートルに短縮された。時間も1時間少々でいいから、かなり

近づいたことになる。このシリーズ最短距離の取材場所である。

データから見える  
高血糖の問題